

## 第二次大戦の日本の行動 (その4)

## 機会を失した決戦期

01602334 松山大学 湊 晋平 MINATO Shimpei

## まえがき

筆者は第二次大戦の決戦期を1942年6月のミッドウェイ海戦から1943年の山本GF長官の戦死までと区分する。

この期間、日本は中部太平洋で攻勢をとったが、ミッドウェイ海戦で敗れ、戦の拡大は抑止した。やがて8月のガダルカナル島に米軍が上陸して連合軍の反攻が始まり、ソロモン群島、南太平洋に幾度かの激戦が闘われたが、日本は制海権、制空権を得ることができずロジスティックに失敗し敗れた。

これと並行して地中海地域および東部戦線で独が敗れたのが注目される。独は北アでロンメルの反攻により優勢となったが、地中海の制海権を失って、補給が続き敗退した。東部戦線でも夏期攻勢をとったが、作戦の単一的ミスから勝利の機会を失し、やがてスターリングラードの悲劇を迎えた。

この結果、国力に劣る日独は敗戦が不可避のものとなった。

## 決戦期の日本の行動の結論

- ① 緒戦に得たせっかくのチャンスと絶好のポジションを、油断と注意力を欠く行動によって次第に失っていった。

特にミッドウェイ海戦では

- 我方の戦力の過信から兵力とアリュージョン方面とミッドウェイに分散して敗れた。
  - 情報漏洩に対する注意力不足から米軍に情報が洩れ、待機されていた。
  - 不運と錯覚が重なり、戦機を失し敗れた。
- ② 米軍の西南太平洋からの反攻の時期をみあままり、我方のロジスティックス能力の限界から、兵力の逐次投入を図り敗れた。
- 陸海軍の協力が不十分であった。両者の戦略思想と思惑が異なりばらばらの作戦を行った。
  - ロジスティック能力に欠け、物資補給や陸揚能力不足で戦機を失した。また衛生面で防疫対策能力がなく戦闘よりも戦えず死亡した人が多かった。
  - 幹部・参謀が戦闘を通じての学習能力に欠け、硬直化した戦術にこだわった。
    - ・銃剣突撃へのこだわり (陸軍)

- ・同一戦法をくり返し用いる (ガ島砲撃; 海軍)
  - ・熟練搭乗員の消耗激しく、戦力を損じた (海軍)
- ③ 日・米の国力、生産力、補給力の差が顕著に表れた。
- 飛行機の生産、補給能力、性能の差が表れ初めた。
  - 飛行場の建設スピード、損耗する艦船の修理・補給能力の差が表れ初めた。
  - レーダを中心とする武器システムあるいは新兵器の性能、信頼性の差が表れ初めた。
  - 衛生品・食品等の技術格差の顕在化。
- ④ 政府中核部門で戦局の前途に対する対応能力が不足 (単一的能力の欠除)。
- 緒戦の勝利に酔い、次の局面への研究不足。
  - 攻撃終末点の認識に欠け、日本の補給能力の限界で戦争を強いられた。
  - 陸軍と海軍の不一致
    - 陸軍はアジア大陸での戦争を常に考え、海軍はGFの主力で、敵の主力艦隊との決戦を最優先的に考えていた。島嶼の攻防戦についての戦略がなく、ばらばらに戦った。米軍は海兵隊の活動を中心に海軍および陸軍が協力して支援した。
  - 陸軍と海軍の資源配分のまずさ
    - 劣弱な国力のもとで生産される資源を、両方が取り合いをし、有効資源配分の努力を怠った。
  - 枢軸国の共同作戦の欠如
    - 日・独がばらばらに作戦し、連合国のごとく密接な協力が見られなかった。
- 参 考 文 献
- 高木惣吉, 「太平洋海戦史 (改訂版)」, 岩波新書, (1959)
  - 林 三郎, 「太平洋海戦概史」, 岩波新書, (1951)
  - 奥宮正武, 「太平洋海戦史の読み方」, 東洋経済新報社, (1993)
  - 伊藤正徳, 「帝国陸軍の最後・決戦篇」, 文芸春秋新社, (1959)
  - 外山三郎, 「区説太平洋海戦史2, 3」, 光人社, (1995)
  - 戸部良一他, 「失敗の本質」, ダイヤモンド社, (1974) 他

### ミッドウェイ海戦の意義

日本	米国
破竹の攻勢の終焉 勝敗の岐路 以後の戦局への陸跌	日本の攻勢の終止符 日米海軍勢力の均衡 以後の日本の作戦を南太平洋に限定

### 決戦期の主要海戦

地域	名称	月日	判定	批評
中部太平洋	ミッドウェイ海戦	6、6	敗北 (2 : 8)	日本攻勢の終焉
ソロモン海域	第1次ソロモン海戦	8、8	勝利 (8 : 2)	戦術的勝利
	第2次ソロモン海戦	8、24	引分け (5 : 5)	前途に暗雲 陸軍を揚陸できず
	サボ島沖海戦	10、11	負 (4 : 6)	先制されるも よく健闘
	南太平洋海戦	10、25	勝利 (7 : 3)	戦術的勝利
	第3次ソロモン海戦	11、12 ~11、14	引分け (5 : 5)	戦略的には不成功
	ルンガ沖海戦	11、30	勝利 (8 : 2)	戦術的勝利

### ガダルカナル島の陸上戦闘

日本軍		米軍	
上陸	32,000人以上	60,000人	
戦死	12,600人	1,600人	
戦傷死	1,900	4,200	
戦病死	4,200		
行方不明	2,500		
捕虜	(1,000)		
撤収	12,000		